

エンジニアHub「Webサービスの開発環境」ランキング

Webサービスの開発に使用されている開発言語、1位はJavaScript、PHP。
フレームワークではVue.js、Reactが同率1位に。

人材採用・入社後活躍のエン・ジャパン株式会社（本社：東京都新宿区、代表取締役社長：鈴木孝二）が運営するWebエンジニアに特化した求人情報サイト『エンジニアHub』（<https://eh-career.com/>）は、サイトに掲載している求人情報をもとに、「Webサービスの開発環境」に関するランキングを作成しましたので発表いたします。

本ランキングは、「年収500万円以上」「自社プロダクトをもつ企業」の求人を中心に掲載する『エンジニアHub』において、2021年6月18日（金）時点での各掲載求人の「開発環境」項目より抽出・作成したものです。採用活動の状況についてもあわせて、サイト責任者の小原が解説します。以下、詳細をご報告します。

Webサービスの開発で使用されている 開発言語 TOP10

1位	JavaScript
	PHP
3位	Python
4位	Ruby
5位	Java
6位	TypeScript
7位	Go
8位	Swift
9位	Kotlin
10位	C#

Webサービスの開発で使用されている フレームワーク TOP10

1位	Vue.js
	React
3位	Ruby on Rails
4位	Laravel
5位	Spring
6位	Angular
7位	CakePHP
8位	.NET
9位	Flask
10位	Django

解説



『エンジニアHub』責任者
小原 慎平

Webアプリケーションのサーバーサイド開発において、メディアやプラットフォーム事業を展開する企業ではPHPを使用した開発が多く、SaaSを展開する企業ではRubyの使用が多いです。また、機械学習を用いたプロダクトも増加しており、一部分の開発でPythonの使用が増えています。

最近では、スタートアップ企業で、TypeScript、Goなどの比較的新しい言語を使用した開発も増えており、特に、GoはWebエンジニアにとって人気の言語で、採用において競合との差別化にもなっています。

フレームワークでは、クライアントサイドは、プロダクトのUI/UXが重要性を増しており、Vue.jsとReactの利用が増加。サーバーサイドは、ここ数年で人気が増しているLaravelと、依然としてRuby on Railsが人気です。インフラでは、多くの企業で利用されているクラウドサービスの中でもAWSが圧倒的です。

採用活動においては、使用言語の経験者を求めることが多い一方、企業やサービスの中でも開発環境が変化していく背景から、新たな言語へのキャッチアップ能力やクラウドサービスも扱えるフルスタックなスキルを重視する企業が増えています。

Webサービスの開発で使用されている コミュニケーションツール TOP3

1位

Slack

2位

Chatwork

3位

Microsoft Teams

Webサービスの開発で使用されている インフラ TOP3

1位

AWS

2位

GCP

3位

Azure

Webサービスの開発で使用されている プロジェクト管理ツール TOP3

1位

JIRA

2位

Confluence

3位

Backlog

Webサービスの開発で使用されている データベース TOP3

1位

MySQL

2位

Redis

3位

PostgreSQL

Webエンジニアに特化した求人情報サイト『エンジニアHub』



<https://eh-career.com/>

「Webエンジニアのキャリアを考える」がテーマのエンジニア向けWebメディアから派生した、エンジニア専門求人サイト。「年収500万円以上」「自社プロダクトを持つ企業」の求人を中心に、IT・Webエンジニア経験者向けの魅力的な求人を厳選しています。

気になる求人を保存しておける「気になるリスト」機能も搭載。保存した企業からの関心度も高い場合は「応募歓迎」通知が届くため、効率的な転職活動が可能です。エンジニアの仕事に活きる質の高い記事も多数掲載しています。

本ニュースリリースに関する問合せ先

エン・ジャパン株式会社

広報担当：大原、清水、羽田、関、星 <https://corp.en-japan.com/>

〒163-1335 新宿区西新宿6-5-1 新宿アイランドタワー
TEL：03-3342-6590 MAIL：en-press@en-japan.com